

令和元年度 第2回三次市地域公共交通会議 議事要旨

1. 開催概要

日 時：令和元年8月22日（木）13時30分～15時00分

場 所：三次市役所 本庁舎 603会議室

出席者：

[会長] 三次市 副市長 堂本 昌二

[委員]

| | |
|------------------------|-------------------------|
| 三次市地域振興部 中原 みどり | 備北交通株式会社 實兼 利光 |
| 有限会社三和タクシー 部谷 勝之 | 三次みどりタクシー株式会社 清川 弘昭(代理) |
| 私鉄中国地方労働組合備北交通支部 土井 弘文 | 粟屋町 加井妻 敏幸 |
| 布野町 中村 義和 | 三和町 福場 和子 |
| 三次商工会議所 竹本 勇夫 | 三次市社会福祉協議会 安井 ひろえ |
| 中国運輸局広島運輸支局 藤井 利佳 | 広島県地域政策局 松田 学(代理) |
| 三次市建設部 坂井 泰司 | 広島県警交通企画課 佐々木 亮 |
| 広島県警三次警察署 恵 武大(代理) | 米子工業高等専門学校 加藤 博和 |

[オブザーバー]

西日本旅客鉄道株式会社広島支社 渡邊 平和

2. 会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) 平成30年7月豪雨災害に係る公共交通の運行状況について
 - (2) 高齢者運転免許自主返納支援事業の利用状況について
 - (3) 平成31～33年度地域内フィーダー系統確保維持計画の一部変更について
- 4 協議事項
 - (1) 消費税率引き上げに伴うバス運賃の改定について
 - (2) 世羅町運営有償運送の三次市への乗り入れ継続について
- 5 その他
- 6 閉会

3. 議 事

1. 開 会

2. 会長あいさつ

(会長)

今年の5月に副市長に就任した堂本です。日頃から三次行政・地域交通にご尽力いただき、皆様には感謝申し上げます。本市も昨年の災害を受け、復興・復旧に全力をあげているが、未だ途中という状況である。市としても総力をあげて対応している。本日の交通会議は実質的には1回目ということで、是非、真摯にご議論いただきたい。本日はよろしくお願ひしたい。

○連絡事項

<事務局より、資料の確認。次の事項を連絡>

- ・本会議は原則公開、傍聴席を設けていること。
- ・会議資料及び質疑応答などの会議録は、市のホームページ上で公開すること。

3. 報告事項

<事務局より、報告事項(1)「平成30年7月豪雨災害に係る公共交通の運行状況について」を説明>

(会長)

本日はオブザーバーとして JR 西日本の渡邊部長にお越しいただいている。平成30年7月豪雨により被災した芸備線について全力をあげて復旧していただいているところであるが、今後の見通しについてご案内できることがあればお願ひしたい。

(渡邊オブザーバー)

夏休みの期間中、線路の設備の強化の為、運休をしていたが、本日より三次、中三田間を運行している。28日間運休していたが、その間、様々な工事を行い順調に進んでいる。狩留家、中三田間は運休しているが、昨日より橋桁の引き延ばしを始め、川の上に桁が繋がるように作業を進めている。順調に進めば予定通り10月には全線が開通する予定である。詳細については広島支社長から9月6日にプレスをする準備を進めている。9月上旬には日程を確定して発表したい。

<事務局より、報告事項(2)「高齢者運転免許自主返納支援事業の利用状況について」を説明>

<佐々木委員より、報告事項(2)関連「運転免許証自主返納支援への取組について」を説明>

(会長)

商工会の竹本委員、何かあればお願ひしたい。

(竹本委員)

府中町の商工会の会報に協力募集の記事が載っている。三次商工会議所では、旧三次市に1400余りの事業所がある。月2回のメールや、年に4,5回程広報紙も発行している。今日の事を持ち帰り、前向きに検討し、協力をしていきたい。

<事務局より、報告事項(3)「平成31～33年度地域内フィーダー系統確保維持計画の一部変更について」を説明>

(加藤委員)

報告事項1について。芸備線の運転再開時に記念行事やセレモニー等の予定はあるか。現在は代行バス期間中であるが、利用者の減少も見受けられるのではないかと思うので、運行再開後の利用促進策も重要なのではないか。芸備線対策協議会などで、キャンペーン等の企画をされているのか。もう1点、今後また局地的な豪雨といった災害が起こる可能性はある。その場合、今回の教訓を持って例えばできるだけ早くインフラを再開していくための計画を立てておくとか、BCP (Business Continuity Plan) を作るなど、市や事業所で何か活かせるものがあれば検討しても良いのではと考える。

(渡邊オブザーバー)

全線開通時のイベントについては、芸備線対策協議会が中心となってイベントを開催していただけるよう支社とやりとりをしている所である。JRとしては各種イベント箇所で安全を確保するための警備要員等、お手伝いをさせていただく。開通にあわせてノベルティを準備することも含めてご利用に繋がる形で沿線の皆様に少しでもお返しできるものを準備したい。

利用減少について。確かに現在は利用されるお客様が減っている。今年度は芸備線対策協議会と協力してイベント列車を含めて計画を立てていくことになっていくかと思う。来年秋にはデスティネーションキャンペーンということでJR6社が広島-瀬戸内軸を中心として全国から集客するようなキャンペーンを実施することが決定している。

(事務局)

昨年度10月に、広島市、安芸高田市、庄原市、三次市の四市でJR広島支社へ出向き、芸備線早期の再開と沿線市による利用促進ということで要望活動をした。また全線再開に向け、先月も四市が集まり、まずは10月末の全線開通のイベント、併せて年間を通じて四季折々の周遊ツアーといった内容を検討している。旅行会社の協力もいただきながら新たな芸備線の魅力を紹介し、市とJRと地域が一緒になって、取り組んでいる。また詳しい案内が出来次第、皆様にお知らせしたい。

災害について。昨年の7月豪雨の際は、市としては代行バスの停留所の設置、運休の周知、代行バスの切符の仕方等を市の窓口を通して広報した。災害後の今後の計画としては、現在広島県を中心に各市町が昨年の災害を元に様々な方策を検討している。色々な情報を持ち寄りながら今後の災害に向けての公共交通のあり方を検討している。

(福場委員)

私の友人で、5,6歳年上の人がいるが、運転免許証の自主返納について詳しくご存知ない。今日は非常に良い資料があるが、今日ここに来て初めて知った。こういう資料を三次市の広報等で周知できないか。ホームページを見るということは無く、QRコードなどもわからない。返納者の中にはそういう人が多いということを意識してもらって、周知の方法を考えていただけたらと思う。

(佐々木委員)

ホームページがあっても見ない方もいらっしゃるのでは紙も非常に大事である。県で作っている支援の一覧などはそのまま広報紙として使えるようになっている。例えば三次市の箇所のみ抜粋して、回覧にする等もできる。また、免許返納の資料もご要望があればお渡しする。どんどん使ってもらえればと思う。

(事務局)

運転免許自主返納の市の事業の広報としては例年2回程度掲載しており、8月号にも掲載している。ただし、「免許を返す」ということは、広報紙の中では積極的に説明をしてこなかった。いただいたご意見はもっともであるので、広報紙、支所だより等、紙媒体での広報を考えていきたい。

(中村委員)

アンケート調査の内容について。自主返納するためには、やはり家族がおられるとか、公共交通の便利が良いとか、何らかの支援がある方の方が多いと思う。これだけの方が自主返納されたが、今はどうされているのか。タクシーやパスピーが使われているのだろうが、便利が悪い所の方もおられると思う。返納後の調査を何年かに1度くらいしてもらって、その結果をこの会議で考えなくてはいけないのではないか。

(事務局)

自家用車が運転できる方は返納に来られないのが実際のところで、返納されるのは身体が悪くなった方が大半で、そういった方には福祉系のタクシー券がある。旧三次では相乗りタクシー事業の制度、旧町村では市民バスを運行しているが、だんだんとドアツードアのデマンド型に移行している。そういったものを組み合わせながら交通移動の支援を考えていきたい。先ほどの追跡調査も検討させてもらいたい。

(加藤委員)

今の調査は、返納された時点でアンケートを採られているが、調査開始当初の25,26年度はそうではなく、対象者に郵送でアンケートを送り、返納後の状況も聞いていた。そのときに多かったのは「家族の方が送迎している」という回答であった。小学校区単位くらいで集計すると青河や甲奴で返納率が高く、青河では自治振興区で無料送迎をされている。甲奴はタクシーの台数が多いということ聞いたことがある。地域の移動手段が確保されているところは返納率が高いような印象を受けた。

現在は、返納後の状況は確かに追跡調査をしなければ分からない。タクシー券の交付を受けている方

が一番多いが、この方々の実際の利用状況はどうか。あまり返納が無いような所は公共交通を充実させていくとか、政策的な対応もこの会議で考えていくことになるかと思う。

県警の方が来られているのでお聞きしたいが、岡山県では愛カードを配って、全県で取り組んでおられるが、広島県でも個別の自治体ではなく、全県的なものをされる予定はないのか。例えば高齢者の方はよくテレビをご覧になっているので、コマーシャルや県の広報番組で流す、とかいう手段も残っているかと思う。また、先ほど大手にもアプローチをされたということであったが、コンビニエンスストア等も沢山あり、協力してもらえれば大きいのではと思う。

(佐々木委員)

大手に声をかけて、既にご回答いただいたのがこの一覧に載っているところである。

(加藤委員)

兵庫県でも全県として実施されているようである。

(佐々木委員)

兵庫県では交通安全対策協議会の中で行っている。県によって、県警や県、また協議会を作っているところがあり、それぞれやり方が違う。岡山の愛カードはかなり先進的である。運転経歴証明書に写真が掲載されるようになる前で、証明書を見ても誰かわからないということで顔写真付きの愛カードを作った。広島は、制度化する程には事業所の数も揃っていないが、今後制度化することは考えている。

4. 協議事項

<事務局より、協議事項(1)「消費税率引き上げに伴うバス運賃の改定について」を説明>

(会長)

質問等が無いようであれば、協議事項(1)について承認いただいたということでよろしいか。

(一同)

(承認)

<事務局より、協議事項(2)「世羅町運営有償運送の三次市への乗り入れ継続について」を説明>

(会長)

質問等が無いようであれば、協議事項(2)について承認いただいたということでよろしいか。

(一同)

(承認)

5. その他

(作木支所)

8月8日の作木町地域づくりネットワーク協議会において、委員の皆様から出された意見ということで、状況を報告させていただく。公共交通の改善についての要望ということで2点出されている。内容としては川の駅三次線についてである。

1点目は、川の駅常清から三次駅前という運行の設定であるが、対岸を走る式敷三次線の方が中央病院の方まで走っているという状況である。できればこちらも三次中央病院まで延長してほしいということである。

2点目は市街地の停留所を増設してほしいという要望である。代替バスの運行については速達性ということで、経路は国道54号から寿橋、国道183号線を通って京蘭寺交差点を經由して終点の三次駅まで運行している状況である。その経路途上にペペラホール（みよしまちづくりセンター）やCCプラザがあるということで停留所の要望が出ている。この意見については、代替バスに切り換える時点でも出ていたようである。運行開始して、期間も経ってから改めて不便を感じて要望されている。利用者増加の観点、並びに利便性向上の観点から出された意見について今後考えていただきたい。

(加井妻委員)

三次市相乗りタクシー制度について。これは以前の市民タクシー制度から移行されたものであるが、当時から見ると、非常に使い易く、利便性の高いものになっている。相乗りタクシーを利用する為には要件がある。その要件の中に2点ほど今後協議をしてもらいたいものがある。

1点目はバス停、駅までが1km以上の人というもの。1km未満の方は利用できないのが現状である。足の不自由な方や高齢者、特に栗屋地区は山間部であり、起伏の激しい道を歩かなければならない。1kmの枠を今後協議していただきたい。

2点目は相乗りタクシー助成券を使用する場合に複数で利用しなければならないこと。2名以上ということであるが、各々の思いもあり、まとまって出るということは大変難しい。栗屋町も昨年から始めているが、50名くらいの方が利用されているかと思う。2名以上ではなく、1名でも可能という方向にしていれば利用者が喜ばれるのではないか。昨年度に移行した時点で、説明会があったが、1km未満はどうするのか、2人以上は難しいという意見も聞いた。今後協議していただきたい。

(事務局)

相乗りタクシー制度について。平成29年度に試験運行を行い、30年度から本格運行を始めているタクシーを利用した制度であるが、これまで利用いただく中で、先ほどのような意見は多数いただいている。また、タクシー事業者からもそういった意見をいただいている。先般の議会の特別委員会においても、もっと利用し易い制度にしてはどうか、という意見を頂戴した。また、先ほどの免許返納の方のその後の支援ということも重要であり、この制度の利用要件については今後関係者の皆様と相談しながら、使い易いものになるよう検討していきたい。

また、作木支所からの意見について。三江線代替バスについては、三江線利用促進協議会で再編実施計画を作成されて、路線、ダイヤが設定されている。5年間はそのまま進めるというものであるが、利

用者の利便性ということで、軽微な変更はできる制度である。今後は運行事業者、関係機関と協議し、利便性の向上に努めて参りたい。皆様にはご協力をお願いしたい。

(加藤委員)

以前の交通会議で川西と作木で、マツダ・広島県・三次市で連携して取組をされていたが、その後の状況をおしえていただきたい。

(松田委員)

三次市で行っているマツダの「支えあい交通」という実証実験であるが、9月末まで運行し、1年の取りまとめを検証ということになるかと思う。この場で報告できるものとしてまだまとまっていないが、近々、3者で協議を行い、今後の取組を考えて参りたい。内容が固まり次第、別途報告させていただく。

6. 閉 会